

『みどりのわ・ささえ愛プラン』区民アンケート 調査結果(概要版)がまとまりました！



【調査概要】

調査対象	： 緑区内にお住いの 20 歳以上の方 4,500 人（120 人の外国籍区民含む）		
抽出方法	： 住民基本台帳から無作為抽出		
回収数等	： 1,313 票（回収率 29.2%、有効回答票 1,310 票）	※令和元年度回収率 29.0%	
調査期間	： 令和 6 年 6 月 24 日～7 月 23 日		
調査方法	： 郵送による配布、郵送またはインターネット回答		

1. 地域とのつながりについて

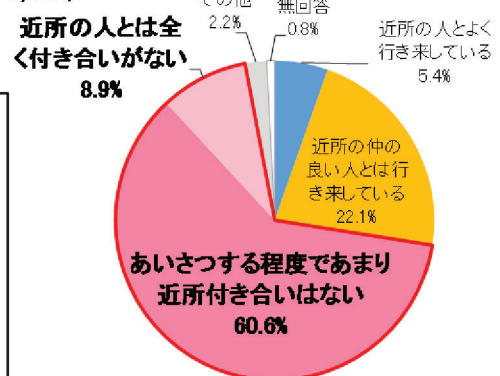
◆近所付き合い

「あいさつする程度であまり近所付き合いはない」、「近所の人とは全く付き合いがない」人が回答者の約7割を占めており、前回調査より増加しています。

Q：あなたご自身は、どのようなご近所付き合いをしていますか。

- ・近所付き合いが少ない人の割合は、多い人の割合の「約 2.5 倍」。前回（令和元年度）に比べて 5.5 ポイント増加しており、地域コミュニティの希薄化が進んでいることがうかがえます。
- ・また、男性より女性の方が近所付き合いは多くなっています。
- ・年齢別では、65 歳以上は近所付き合いが多くなる傾向があります。特に 75 歳以上は「近所の人とよく行き来している」、「近所の仲の良い人とは行き来している」の回答が 4 割半ばと、他の年代に比べて高くなっています。

(n=1,310)



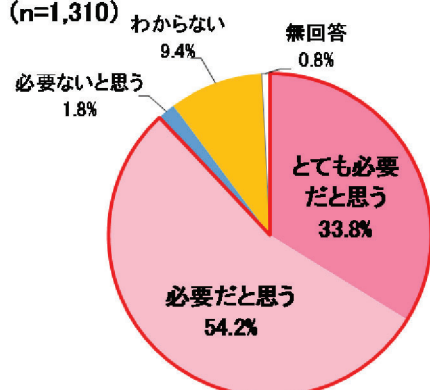
◆顔の見える関係づくり

災害時に地域の助け合いがうまくいくために、日頃から顔の見える関係づくりに取り組むことが「必要」という人が 9 割近くを占めています。

Q：災害時に地域での助け合いが上手くいくためには、日頃からお互いを気に掛け合うなど、顔の見える関係づくりに取り組むことは必要だと思いますか。

- ・近年の災害発生状況も踏まえて、区民の方の多くが、顔の見える関係づくりは大切であると思っていることがうかがえます。
- ・また、近所付き合いが多い人ほど顔の見える関係づくりに取り組む必要性を感じている傾向にあります。

(n=1,310)



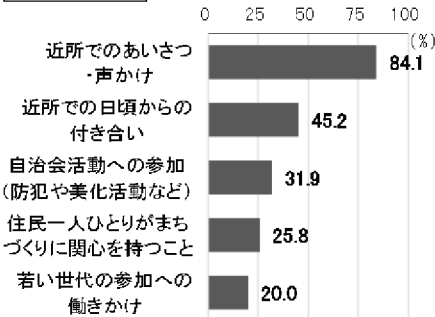
◆顔の見える関係づくりのために必要なこと

年代を問わず、「あいさつ・声かけ」「近所での日頃からの付き合い」の回答が多くなっています。

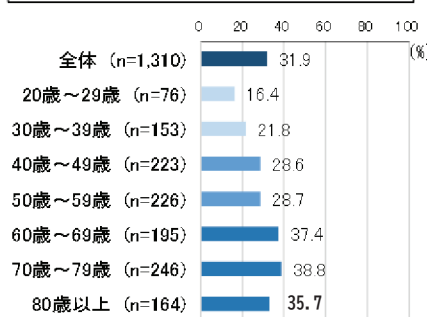
Q：地域で「顔の見える関係」を築いていくためには何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・なお、「自治会活動への参加」の回答は、年齢が高いほど多くなる傾向があります。「若い世代の参加への働きかけ」の回答は20歳代が多くなっています。

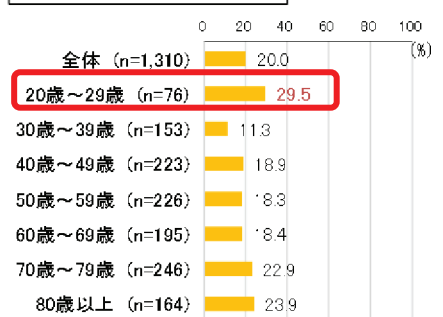
全体 (n=1,153)



自治会活動への参加 (防犯や美化活動など)



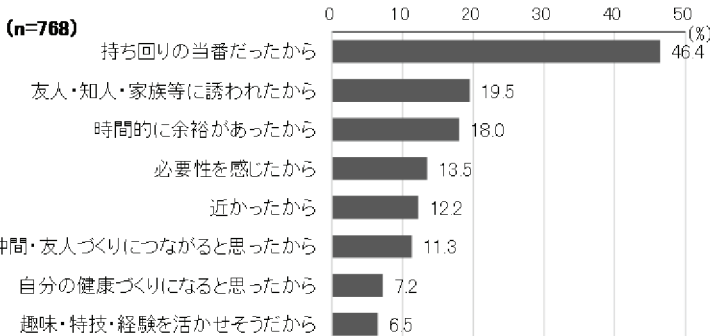
若い世代の参加への働きかけ



◆地域活動に参加したきっかけ

「持ち回りの当番だったから」の回答が多くなっています。

Q：あなたが地域で行われている様々な活動に参加したのは、どのようなきっかけでしたか。(主なもの3つまで〇)



- ・地域活動に参加したきっかけについて、「持ち回りの当番だったから」が多く、地域活動への参加は慣例的になっていることがわかります。
- ・また、「時間的に余裕があったから」、「近かったから」の回答が多いことから、条件が合えば地域活動への参加につながりやすいことがわかります。

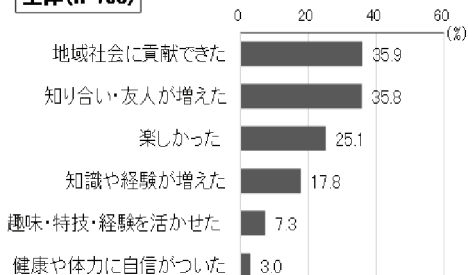
◆地域活動に参加してよかったと思うこと

年代問わず、「地域社会に貢献できた」、「知り合い・友人が増えた」の回答が多くなっています。

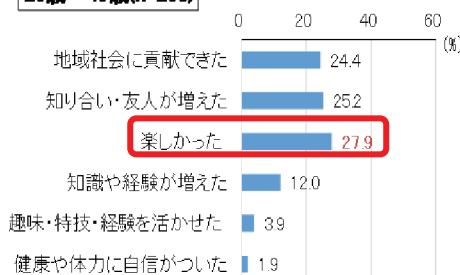
Q：あなたがスタッフ・ボランティアとして地域活動に参加してよかったと思うことはなんですか。(主なもの3つまで〇)

- ・49歳以下では、「楽しかった」の回答が多くなっています。
- ・50歳以上では、「知識や経験が増えた」の回答が多くなっています。

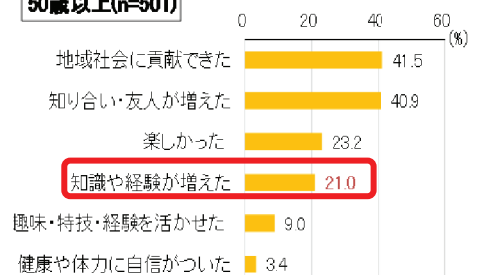
全体 (n=768)



20歳～49歳 (n=258)



50歳以上 (n=501)

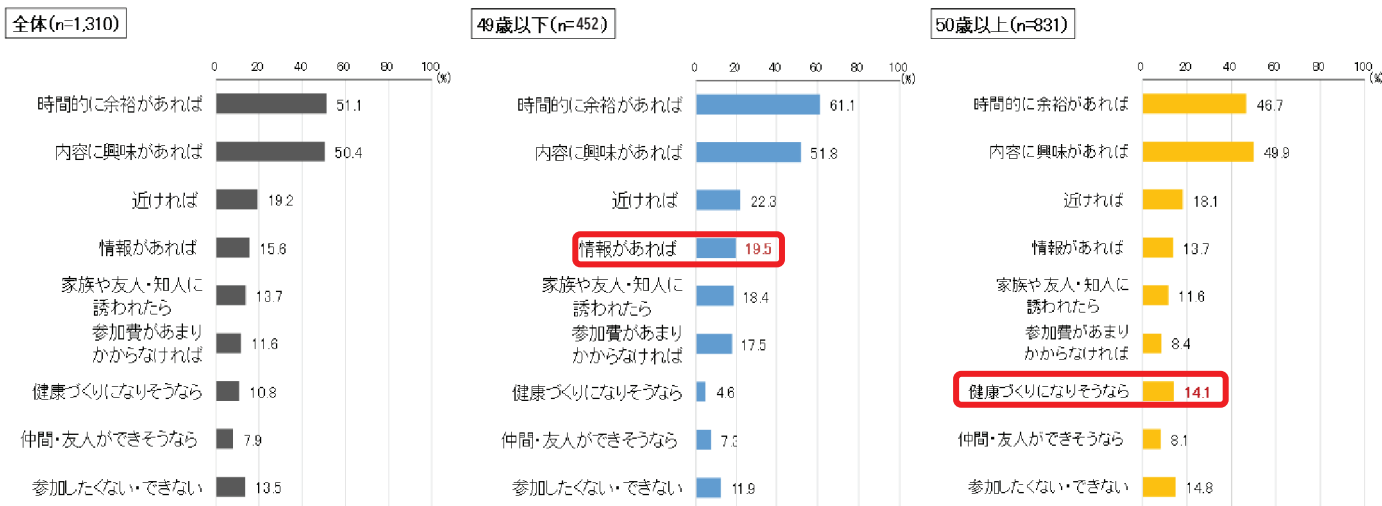


◆どのような条件であれば地域活動に参加したいと思うか

年代を問わず、「時間的に余裕があれば」、「内容に興味があれば」の回答が多くなっています。

Q：あなたは、今後、どのような条件であれば地域活動に参加者として参加したいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

- ・49歳以下では、「情報があれば」の回答が多くなっています。
- ・50歳以上では、「健康づくりになりそうなら」の回答が多くなっています。

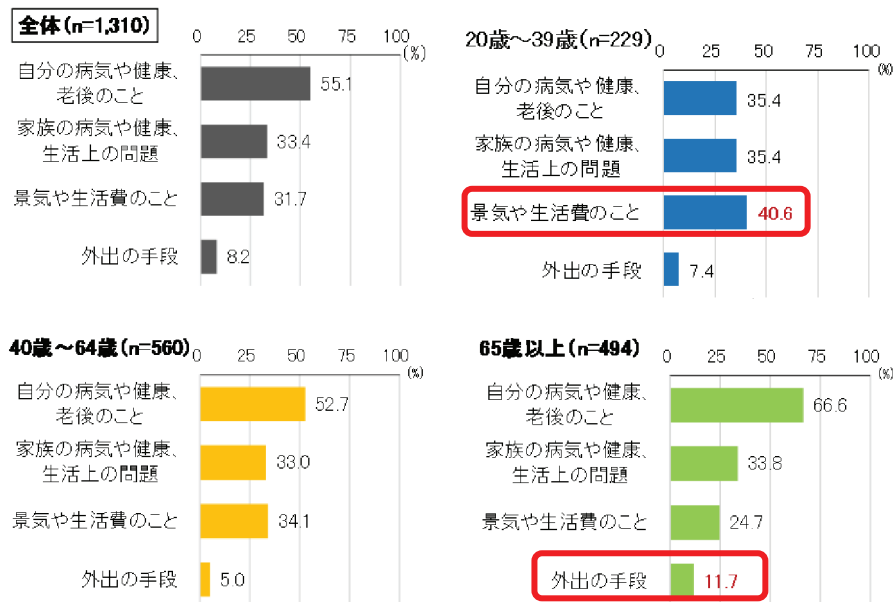


2. 日常生活の困りごとについて

◆生活上、特に困っていること

「自分の病気や健康、老後のこと」、「家族の病気や健康、生活上の問題」の回答が多いものの、年代によって傾向が異なります。

Q：あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで心配ごとや困っていることがありますか。
(○は3つまで)



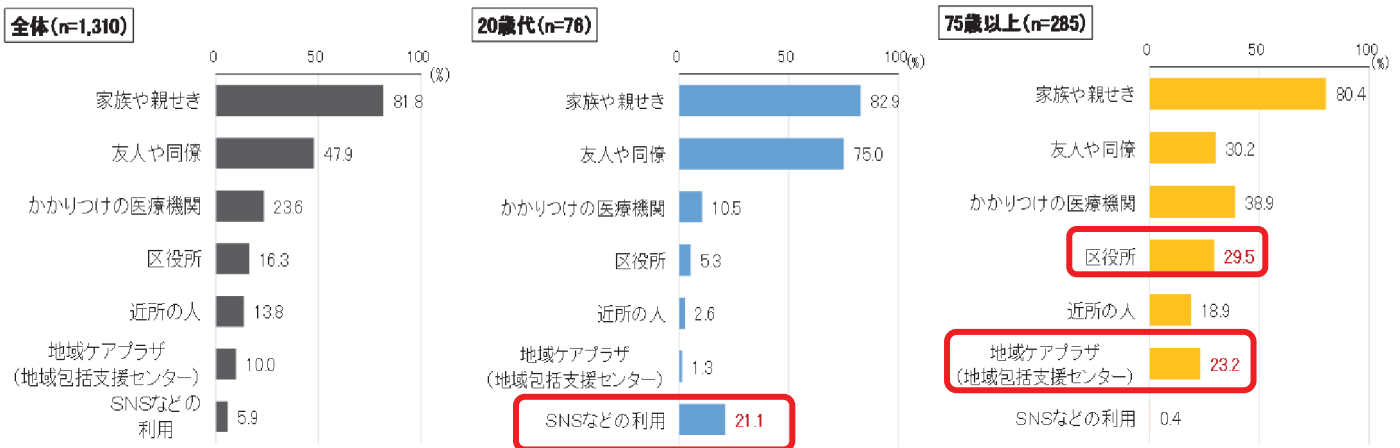
- ・年代が上がるにつれて、「自分の病気や健康、老後のこと」を気に掛けている傾向があります。
- ・39歳以下では、「景気や生活費のこと」が他の年代よりも高くなっています。
- ・65歳以上では「外出の手段」が他の年代よりも高くなっています。

◆生活上の困りごとの相談先

区役所などの「公的機関」よりも、最も身近な「家族や親せき」に相談する人が多くなっています。

Q：心配ごとや困ったことが起きた時、相談する人や相談する場所がありますか。それは、誰・どこですか（「相談したことがある」、または「相談しようと思う」を含めてお答えください）。（あてはまる番号すべてに○）

- ・20歳代では、ほかの年代より「SNS」の回答が高くなっています。
- ・75歳以上では「区役所」、「地域ケアプラザ（地域包括支援センター）」の回答がほかの年代より高くなっています。

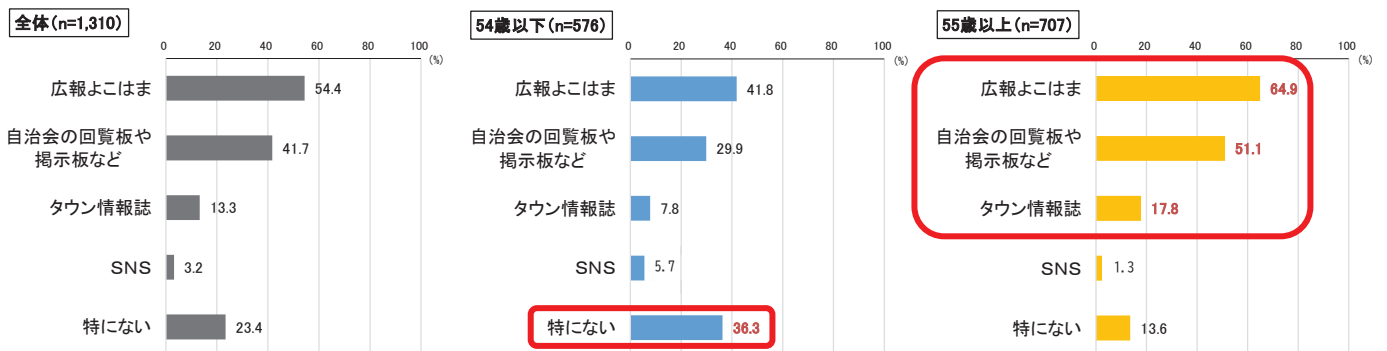


3. 情報の入手方法について

「SNS」よりも「広報よこはま」、「自治会の回覧板や掲示板など」の媒体で情報を入手することが多くなっています。

Q：あなたは、地域の福祉保健に関する活動の情報をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

- ・年代が高い方が「広報よこはま」や「自治会の回覧板や掲示板など」、「タウン情報誌」の回答が多くなっています。
- ・「SNS」については、全ての年代で少なくなっています。
- ・年齢が低くなるにつれて「特にない」の回答が多くなっています。



・小数点以下第2位を四捨五入、または複数回答の項目があるため、グラフの回答割合の合計が100%にならない場合があります。